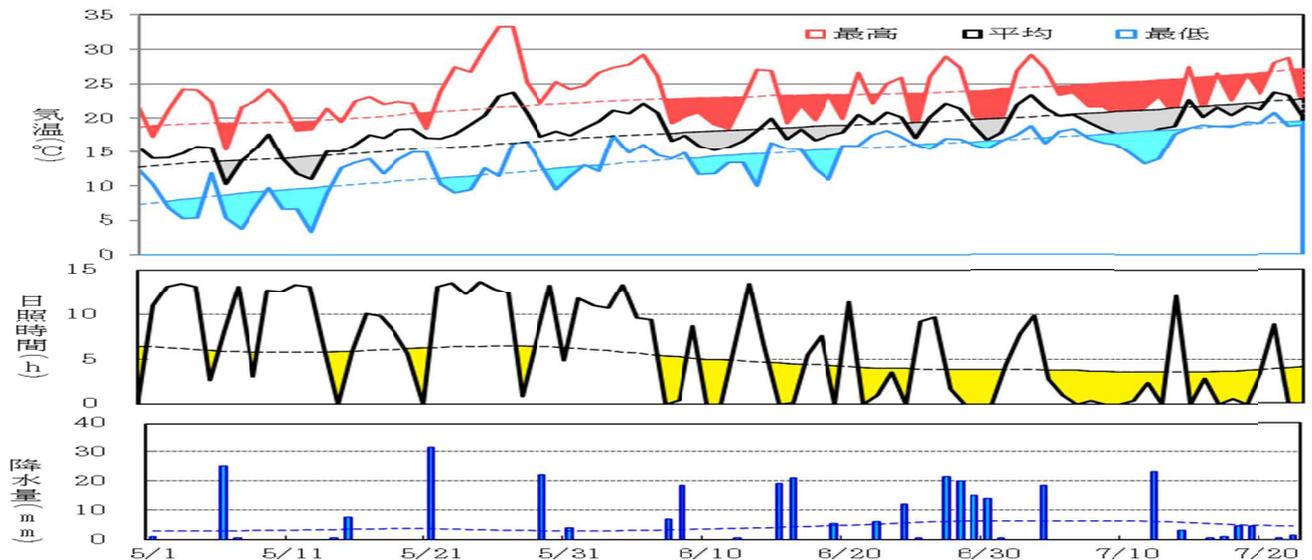


～6月下旬から寡照、日照不足の影響懸念 病害虫に注意！！～

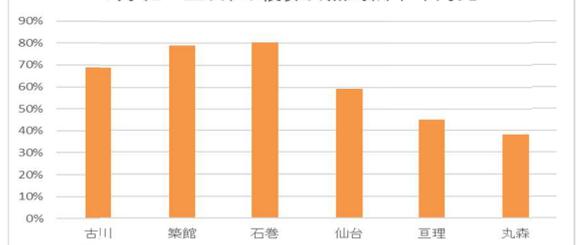
1 気象経過 (アメダス古川)



気温・日照の平年差比(°C)(時間)

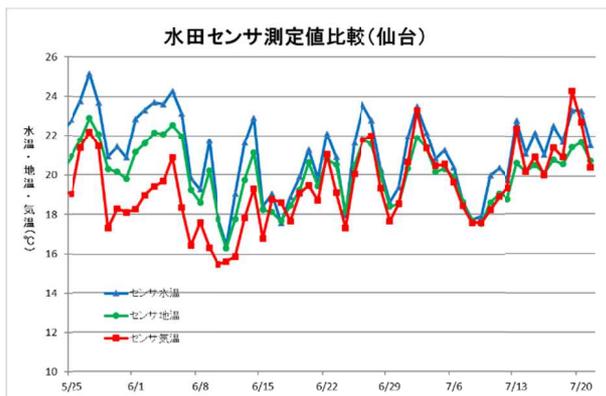
月旬	平均	最高	最低	日照時間	日較差
6月下旬	19.5	23.2	16.7	25.2	6.5
平年差	0.0	▲0.6	0.5	▲14.6	▲1
6月の平均・積算	18.7	23.3	14.9	151.9	8.4
平年差	0.2	0.1	0.1	8.1	0.0
7月上旬	19.8	23.5	16.7	26.7	6.9
平年差	▲0.8	▲1.3	▲0.7	▲11.3	▲0.6
7月中旬	21.2	24.8	18.5	30.4	6.4
平年差	▲0.6	▲1.3	▲0.2	▲6.3	▲1.0

7月(1～22日)の積算日照時間平年対比

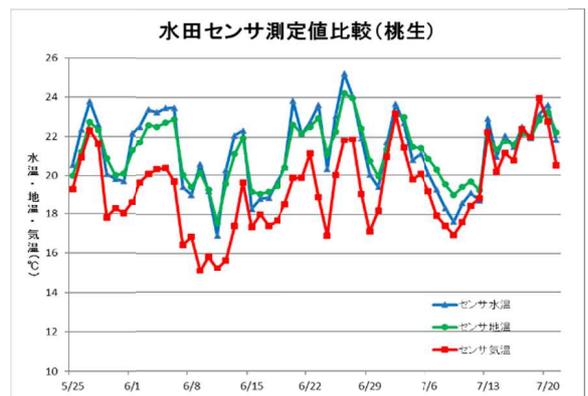


- ・6月の気温は、ほぼ平年並みだったものの、下旬は最高気温がやや低く、7月に入り中旬までやや低温傾向に経過しているものの、極端な低温にはならなかった。
- ・日照時間は6月下旬から平年を下回る日が多く、6月下旬～7月中旬の積算では平年より32.2時間ほど寡照となった。
- ・7月の地域別日照時間では、仙北や石巻地域では平年の7割～8割であるが、仙台以南は3割～5割とかなりの寡照となっている。
- ・降水量は、6月下旬～7月にかけては多雨傾向で、その後は霧雨程度で推移している。

水田センサ測定値比較(仙台)



水田センサ測定値比較(桃生)

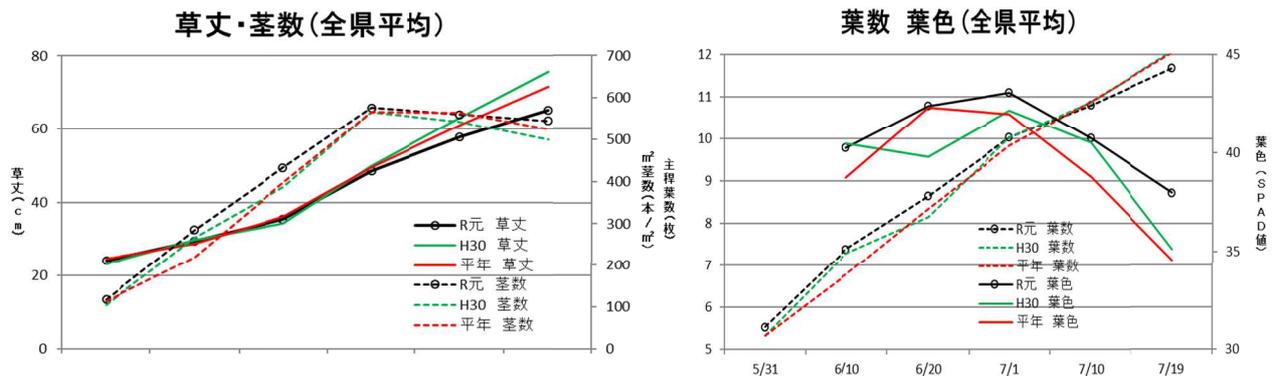


【水田センサーの観測値】

- ・好天時は気温や水温、地温の差が大きいが、曇雨天時は、測定項目値の温度推移はほとんど同じになっている。
- ・桃生では気温と水温、地温の差が見られるが仙台では、あまり差がない。
- ・仙台、桃生とも7月に入って幼形期頃の水温は、ほぼ20℃を上回っている。

2 生育状況等

(1) 生育状況(6月1日～7月20日)



(7月19日現在の生育状況)

県全体	草丈			茎数			葉数			葉色			幼穂長		
	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
	65.1	86	91	544	109	104	11.7	▲ 0.4	▲ 0.4	38.0	2.8	3.4	25.5	▲ 29.6	▲ 33.5

- ・草丈は、7月10日以降平年より短めに推移し、19日現在平年比91%となっている。
- ・茎数は、依然として平年、前年を上回って推移し、19日現在平年比で104%となっている。
- ・主稈葉数も7月10日以降は、平年を下回っており、同じく0.4枚遅れている。
- ・葉色は、依然として前年および平年より濃い～並に推移している。幼穂長の伸長も遅れている。

(2) 本年の幼穂形成始期と減数分裂期の予想(古試 7/16日現在)

地帯区分	減数分裂期			出穂期		
	始期	～	終期	始期	～	穂揃期
北部平坦	7/12	～	7/22	8/2	～	8/8
南部平坦	7/12	～	7/22	8/2	～	8/7
仙台湾岸	7/12	～	7/25	8/2	～	8/10
西部丘陵	7/15	～	7/27	8/5	～	8/13
山間高冷	7/26	～	8/3	8/14	～	8/22
三陸沿岸	7/21	～	7/28	8/9	～	8/15



- ・7月16日以降平年より低温傾向に推移しているため、この予測より時期が遅れると思われる。
- ・圃場や品種のよって時期は異なるので、圃場ごとに幼穂や葉耳間長を確認する。

3 今後の管理と天候予想

(1) 病害虫防除 (7/19 発生予察情報等 病害虫防除所)

① いもち病防除

- ・感染好適日が7/17, 19に広域的に発現しており、注意が必要である。
- ・止葉や次葉に「葉いもち」がある場合「穂いもち」の重要な伝染源となるので、よく圃場を見回り、発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤による防除を実施する。
- ・「穂いもち」防除を茎葉散布剤で行う場合は、出穂直前、穂揃期及びその7～10日後の3回実施する。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	江ノ島	仙台	名取	白石	蔵王	巨理	丸森
7/17	○	—	○	△	—	—	△	—	●	—	△	—	—	○	●	○	●	●	—	○	●	—
7/18	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/19	○	●	●	—	●	○	●	—	●	●	●	—	△	○	●	○	●	●	○	●	●	●
7/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/21	—	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	△	—	—

病害虫名	発生時期 (発生初期)	発生量
穂いもち	平年並 (8月第4半旬:8/16~8/20)	平年並

② 斑点米カメムシ類

- ・出穂に伴い水田への侵入が始まるため、水稻の生育ステージと水田内のカメムシ類の発生に十分注意する。
- ・薬剤防除は、穂揃期と+7～10日後に畦畔を含めて2回実施する。
- ・イヌホタルイが発生している水田は1回目の防除を「出穂始期～穂揃期」に早めて実施する。

病害虫名	発生時期 (水田侵入始期)	発生量
斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)	平年並 (8月第1半旬:8/1~8/5)	平年並

(2) 1ヶ月予報 (7/20~8/19)

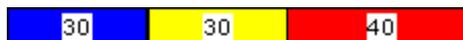
- ・期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多い。期間の後半は、天気は数日の周期で変わる。
- ・日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%である。
- ・1週目は、平年並の確率50%で、2週目も平年並の確率50%である。

<気温経過の各階級の確率(%)>

【気温】東北地方



【降水量】東北地方



【日照時間】東北太平洋側



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)